

TNC
通信

2022
9月号

16日から「写真展」開催 富谷市役所1F交流ホールで

前号でご案内した日中国交正常化50周年を記念しての「中国在住日中カメラマンによる写真展『時の記憶』」(富谷市日中友好協会主催)が9月16日からのオープンに向け、準備が進められています。

上海の菅原寿和さんから写真家10人によるカラー、モノクロ、風景、人物など40点が送られてきました。9月30日まで開催しますの。ご家族・ご友人とご一緒にお楽しみ下さい。



寅(トラ)の諺
「寅嶋(ぐう)を負う」山のふところを嶋という。虎は山ふところの前で行動を起こす事から、英雄が本拠地を構えて勢力をはる事の譬え。
(『孟子』)



県協会で「定期総会」行う

8月27日、宮城県日中友好協会(佐々木謙会長)の2022年度定期総会が行われました。国交正常化50周年を記念して中国伝統芸能の「川劇変面」(王文強氏の弟子で松林拓希さん=写真)も演じられました。

総会では諸議案が承認されたほか、役員人事では富谷市日中の水戸憲子さんが理事に選出されました。

正常化 50周年 私の想い

課題克服し両国の発展へ 会長 中山 耕一

1972年9月29日北京、当時の田中角栄内閣総理大臣と周恩来國務院総理が「共同声明」に署名し、日中両国は国交を正常化しました。

以来、50年。様々な出来事とともに友好を図るための歴史を刻んできました。富谷市日中友好協会も、これまで先達の皆さんや現会員の皆さんのご尽力により、様々な事業とともに地域あるいは中国の現地における友好活動を展開してこられました。近年はコロナ渦などの影響により、活動への制限が加えられるようになりました。そのような中でも知恵を絞りながらの活動継続に衷心より感謝申し上げます。

私は中学生の頃に、『三国志』などの書から登場人物の人格や行動から礼節や道理などを学んで中国を身近に思い、その後、大連市を訪問し、日本企業の進出や中国の開発の現状や発展ぶりを目にする機会などもありましたが、富谷市日中のみなさんとの活動の中でもっと大切なことを学んだと思います。

国交正常化後、日本はODAなどを通じて中国の発展を後押しし、ビジネスや文化など幅広い分野で交流を進めてきました。安全保障上の懸念など、大きな課題がありますが日本と中国は引越しのできない一衣帯水の隣国同士。50年前の原点に立ち返り、信頼に基づく知恵や技術の融合により、お互いが更に発展し合える、未来へ希望をもって歩んでいきたいと思ひます。

七夕に「ゆかた着付け体験会」

県女性委員会が主催し8月8日、国際センターで行い、留学生15人が参加。富谷市日中からも応援しました。

『兵諫(へいかん)』(浅田次郎著 講談社 1760円)



著者の「中原の虹」「マンチュリアン・レポート」とつながる。兵諫とは兵を挙げてでも主の過ちをいさめる意。現代史の謎である「西安事件」を米国出身のジャーナリストの“眼”で19

36年2月に日本で起きた2・26事件と同年12月の西安事件を見つめなおしている力作ミステリーだ。

西安事件は国共の内戦停止・一致抗日派の東北軍・張学良及び17軍・楊虎城が督戦のため南京から古都・西安にきた国民党総統・蒋介石を拉致軟禁し、抗日統一戦線結成のきっかけとなった事件。本書の主役は張学良が首謀者ではないと証言する陳一豆と2・26事件が張学良らを突き動かした兵諫という推理を展開していく。(M)